

..... 編集後記

◆先月号は、編集の途中から、兵庫南部地震の緊急記事を入れることになり、編集を大きく変更した。出版がずれ込んだが、特集の内容はいかがだっただろうか。本誌では、今回の地震を機会に、災害と地質との関連をあらためて多角的な視点から考える機会を作りたいと考えている。先月号でお知らせしたように、これに関連した特集を再度組む予定にしているの、読者のご意見、ご寄稿を歓迎する。

◆本号は、当所が工業技術院特別研究で平成5年度から実施している「島弧型炭化水素ポテンシャルの形成機構と予測手法に関する研究」を中心に、関連研究の動向や成果を特集した。本号では、まず、グローバルな環境や初期続成過程に関連した部分をレビューしたが、つづけて第2報として、応用編を準備中である。併せて読んでいただければ幸いである。本号の編集に当たってはプロジェクト・リーダーの徳橋秀一氏に全体を構成して頂いた。鈴木徳行氏からは、ちょうど北海道大学へ異動されたさ中のお忙しい時期にもかかわらず、最新の研究動向を寄稿していただいた。幅広い観点から課題が展望されたと感謝致します。

◆表紙と口絵写真の前半は、鈴木祐一郎・山本正伸両氏が、1990年にオマーンへ調査に出張された際の貴重な写真から紹介した。表紙の露頭は、このとき開催されたオフィオライトに関する国際シンポジウムでの巡検の一部である。地殻の断面を目の当たりにできる興味深い写真が他にも多数あったが、それらは次の機会にまとめて紹介できればと思う。

◆本号で平成6年度も最後の出版にこぎつけた。あいかわらず遅れが目立ち読者の皆様に変えご不便をお掛けしていることをお詫びする。本誌は、研究機関が編集する普及誌でありながら、単に業務内容を一方的に広報するにとどまらず、所外からの幅広い寄稿を含めて編集してきた。産業界・学会・官界のさまざまな動向や意見を取り入れることによってこそ、我々の研究の目的、方向性、課題を見定めることができ、また、ご理解いただけると考えるからである。新年度も多彩な特集と、新企画のシリーズなどを計画しているので、引き続きご支援とご批判をお願いしたい。最後に、本年度ご投稿頂いた方々、編集・出版にご支援・ご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

〈編集委員長 小玉喜三郎 記〉

地質ニュース編集委員会

委員長：小玉喜三郎

副委員長：佐藤興平

幹事：宮崎光旗・奥村公男・石井武政

委員：今井 登・岡村行信・杉原光彦・内田利弘・野田徹郎・吉井守正・豊 遙秋・佐藤岱生

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係（島山浩之・徳宿由美子）

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

1995年3月号

地質ニュース	第487号 1995年3月号
	定価 ¥ 770 千 実費
1995年3月1日 発行	
編集	工業技術院地質調査所
発行人	株式会社実業公報社
	代表者 林 光生
発行所	株式会社実業公報社
	東京都千代田区九段北1の7の8
	Tel. (03)3265-0951 (代表) 〒102
	振替口座 00110-6-32466
	麹町局私書箱第21号
印刷	小宮山印刷工業株式会社

©1995 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。